

# 連携3事業 成果を報告

愛媛大と松山大

愛媛大と松山大の連携事業成果報告会が8日、松山市文京町の愛媛大であり、2018年度に取り組んだ3件を両大の研究者らが発表した。

愛媛大大学院農学研究科の荒木卓哉教授らは、認知症に予防効果があるとされる機能性成分トコトリエノ



ールを多く含む裸麦の栽培方法などを検討。トコトリエノールを摂取することによる効果の解析に着手したほか、もち麦の需要増加を見通し、健康機能性を高めた品種の開発に取り組む計画を説明した。

認識されにくい微生物の存在や機能を広めようと、学術フォーラムや市民向けイベントを実施した愛媛大沿岸環境科学研究センターの大林由美子助教は、「普段とは異なる人々と議論や交流をしたり、専門外の人に説明したりする経験は学生にとって教育効果があった」などと成果を紹介。県内の病院で抗がん剤の汚染除去に用いられているオゾン水の有効性の検証に関する報告もあった。

連携事業は両大の特色を生かし、教育・研究の充実を図り社会に貢献することを目的に、10年度に開始。18年度までに42のプロジェクトが実施された。

(伊藤絵美)

愛媛大と松山大が2018年度に実施した連携事業の成果報告会―8日午後、松山市文京町